

ポストが
真っ赤に
なるような
ラブレター
を書こう。



ポストが真っ赤になるようなラブレターを書こう。

発行日 2004年12月7日 初版第1刷発行

企画・編集協力 ハートラインプロジェクト

発行者 東英弥

発行所 株式会社宣伝会議

東京都港区南青山3-13-16

〒107-0062 TEL 03-3475-3030

URL <http://www.sendenkaigi.com>

アートディレクション・副田高行

デザイン・中本陽子（副田デザイン制作所）

写真（表紙、P41）・上田義彦

写真（P18、21、23、25、27、28-35、62）・泊昭雄

イラスト（P36、63）・千葉伯利（東京パブリシティー）

印刷・製本 大日本印刷

ISBN 4-88335-122-X

©SENDENKAIGI 2004 Printed in Japan

無断転載禁止 落丁・乱丁本は取り替えます。

ポストが
真っ赤に
なるよう
ラブレタ
を書こう。

江苏工业学院图书馆
藏书章

はじめに

人と人とのコミュニケーション手段がデジタルにより多様化した現代ですが、コミュニケーションとは本来、心と心が触れ合うことだと思います。“人與人” “心と心” が離れているように感じられる現代で、私たちの周りには多くの情報に囲まれながら1日が早い、1年が早いと、忙しい時間を過ごしている人達が大勢います。そのような時代だからこそ「万年筆」を復旧させたいと願っています。昨今、静かなブームといわれる万年筆も道具としてみれば「インクが乾かない」「インクが無くなる」「カーボン紙に使えない」などボールペンに比べて不便なことから使う人の数が一時期に比べ激減しました。しかし、この万年筆のインクが無くなった時の“道具が止めてくれる時間”、そんな時間にふっと良い考えが浮かんでくることもあります。インクで汚れた手を見て、子供の頃に大人から「手を洗いなさい」と言われても洗わなかった時代を思い起こすこともあります。このような一見無駄とも思われる時間を楽しむことができれば、忙しい毎日の生活が変わるかもしれません。そして万年筆で綴られた心の軌跡は、万年筆の持つ独特の筆跡と共に相手の心に届くに違いありません。そのような考えから“人與人” “心と心” を繋ぐ意味を込めて“Heart Line（心の軌跡）”という名前のプロジェクトを立ち上げたのが一年前です。私たちの想いを広げ伝えるために“Heart Line”を大きく3つのプロジェクトに分けました。

- -

PHASE.1 “Heart Line Award”

各界著名人の生き方や表現活動などに対し、「心のゆとり」をキーワードに、ベスト・ペン・パーソンを決定し表彰する。

PHASE.2 “Heart Line Prize”

若手のコピーライターやグラフィックデザイナー、
フォトグラファーなどクリエイティブな分野で活躍されている人々を
対象に、万年筆をモチーフにした「大切な人への想いが伝わる作品」
を募集し、優秀な作品に対して賞を贈呈する。

2004年10月19日にAward・Prizeの授賞式を都内ホテルで開催する
ことが出来ました。その作品の数々がこの本の中に掲載されています。

PHASE.3 “Heart Line Book”

そして、この本の出版です。この書籍のタイトルの
「ポストが真っ赤になるようなラブレターを書こう。」は、
“Heart Line Prize 2004” コピー部門で優秀作となった作品です。
本書籍では、この「ラブレター」の意味を「大切な人への想いを
綴ったもの」としています。この本を読み終えた皆様へ、
プロジェクトに携わった全ての人々の熱い想いと心が届き
「たまには大切な人へ、メッセージでも書いてみようかな」とペンを取って
もらえたら、と思っています。大切な人へ綴ったその筆跡が心の軌跡と
なり、心と心の触れ合いが増えていくことが、私たちの願いです。

Heart Line Project 一同

目次

02 はじめに

Heart Line Award 2004

06 大切な人へ、想いを込めて

08 ○麻木久仁子

09 ○齋藤薫

10 ○佐藤江梨子

11 ○中村史郎

12 ○中村江里子

13 ○松山猛

14 ○松浦弥太郎

15 ○室井滋

16 ○行定勲

17 「愛」谷村新司

19 文字に想いを託して

20 ○石川次郎

22 ○石渡健文

24 ○大家正治

26 ○香山知子

28 PHOTO

つながる空間。

生まれる空間。

36 シアワセな時間。

37 想いを、形に。

38 ○眞木準

40 ○上田義彦

42 ○副田高行

Heart Line Prize 2004

44 クリエイティブに、想いをのせて

48 コピー部門

51 雑誌部門

56 ポスター部門

60 時の風

63 インク^{セカイ}の宇宙

64 手紙と一緒に^{たび}航海に出よう

- 66 PENのある風景
- 67 Delta
- 68 Pentel
- 70 PILOT
- 72 PLATINUM
- 74 SAILOR
- 76 AURORA
- 77 CARAN D'ACHE
- 78 Cartier
- 79 CROSS
- 80 Graf von Faber-Castell
- 81 LAMY
- 82 三菱鉛筆
- 83 MONTBLANC
- 84 MONTEGRAPPA
- 85 OMAS
- 86 PARKER
- 87 Pelikan
- 88 Stipula
- 89 TOMBOW
- 90 Visconti
- 91 WATERMAN
- 92 YARD-O-LED
- 93 ZEBRA

- 94 おわりに

Heart Line Award 2004

大切な人へ、想いを込めて

“Heart Line Project”は、

ゆとりある生活の創造を目的としています。

Projectの一環として、世の中に「心のゆとり」や

「豊かな時間」をもたらすことに貢献した人物を、今回

“Heart Line Award 2004” ベスト・ペン・パーソン

として、表彰しました。

選考主旨

ベスト・ペン・パーソンとは、様々な活動やメッセージによって、世の中に「心のゆとり」や「豊かな時間」をもたらすことに貢献した人物のこと。石川次郎氏を選考委員長とした、他大手出版社8誌の編集長で構成される選考委員会によって9名が選出されました。

審査委員（五十音順）

選考委員長

○石川次郎 ジェイ・アイ 代表取締役

選考委員

○石渡健文 マガジンハウス BRUTUS編集長

○大家正治 小学館 ラビタ編集長

○香山知子 ワールドフォトプレス 世界の腕時計編集長

○齋藤和弘 日経コンデナスト GQ JAPAN・VOGUE NIPPON編集長

○十河ひろ美 世界文化社 MISS編集長

○塚本香 阪急コミュニケーションズ FIGARO japon編集長

○西川清史 文藝春秋 クレア・イーツ編集長 兼 第二編集局長（CREA・TITLE）

○原田隆 講談社 新雑誌研究部(前FRaU編集長)

受賞者名（五十音順）

○麻木久仁子 タレント

○齋藤薫 美容ジャーナリスト

○佐藤江梨子 タレント

○中村江里子 フリーアウンサー

○中村史郎 日産自動車 常務 デザイン本部長

○松浦弥太郎 文筆家・COWBOOKS代表

○松山猛 文筆家

○室井滋 女優・エッセイスト

○行定勲 映画監督



HEART LINE AWARD 2004

生まると、
軽やかに、
ステップを踏んでね!!
いつまでも...

Y
77 + 217



女手ひとつで子供3人育ててくれた母が60を過ぎて、やっと自分の時間を得、社交ダンスを始めました。「頑張って! 今までの分、楽しんでね。」という気持ちです。

麻木久仁子 (タレント)

東京都生まれ。85年、学習院大学法学部を中退後、テレビCM、テレビドラマ、映画、ラジオ等多数出演。現在もバラエティーをはじめクイズ番組から報道番組まで多くのレギュラー番組をもち、司会やタレントとして活躍中。また、雑誌の連載や講演活動もこなす。



HEART LINE AWARD 2004

20代は自分を愛し、
30代は、家族を愛す
あれ 40代は他人に対して
1人1人の愛情をもてるようになる……
1人1人とういうふうな
年を重ねていっていいじゃないか？
幸せも正しく遍歴があるから。

斎藤 薫



人の魅力も最後の最後は、愛情深さで決まるような気がします。だから年を重ねるほどに、愛情を持つ対象もどんどん広げていきたいのです。結果的にはそれが、20代30代40代とそれぞれの年代を一番幸せに生きていく方法に他ならないのですから…。

斎藤 薫（美容ジャーナリスト）

東京都生まれ。女性誌編集者を経て美容ジャーナリストへ。美容記事の企画、化粧品の開発・アドバイザーなど幅広く活躍。著書「ここを凍とする196の言葉」(ソニーマガジンス)、「素敵になる52の“気づき”」(講談社文庫)、光野桃氏との共著「優雅で野蠻な女になる方法」(新潮社)、「女のひととを楽にする本」(主婦の友社)、「美女の教科書・超美人学×超美容学ⅠⅡ」(文藝春秋)など多数。



HEART LINE AWARD 2004

いつも、本当にありがとうです。
生まれて来てくれて、
あなたに会えて、
いから感謝します。
言葉に... 声にあるエリ、残したい気持ち
偽りのない、本当の気持ち...
愛してる、ありがとう♡

佐藤江梨子



キューティーハニースタッフ一同様。私を愛の戦士にしてくれてありがとうございます。CUTIE HONEY

佐藤江梨子（タレント）

1981年東京都生まれ。1998年イエローキャブ所属。雑誌のグラビア、テレビ、CM等多数出演。女優としてもテレビドラマ、舞台、演劇、映画と幅広く活躍、2004年に主演映画「キューティーハニー」が公開された。エッセイや「小説すばる」の連載をはじめ、雑誌の映画評・書評などの執筆を手がけ、カルチャー分野でも高い評価を得ている。「Yellow Girls」（小学館）、「気遣い喫茶」（扶桑社）など。



HEART LINE AWARD 2004

モノを愛する人へ

待つことに よろこびがある。
使うたびに 感動がある。
その 個性的なモノを 生み出す。
使う人と 気持ちを 共にする。
それが 我々 デザイナーの 願いです。

中村 史郎



デザインとはカタチをつくること。あるいは、つくる側の一方的な行為だと思われがちです。しかし、デザインとは本来コミュニケーションであり、つくる側だけでは成立せず、つくり手と使い手の双方で創り上げて行くものだと思います。使う人が自分のモノとしたときに、つくり手の思いが使い手の心に届き、デザインがはじめて完成するのです。

中村史郎（日産自動車 常務 デザイン本部長）

1950年大阪府生まれ。1974年に武蔵野美術大学工業デザイン専攻を卒業後、1981年米国アートセンター・カレッジ トランスポートデザイン卒業。いすゞ自動車に入社。1985年より米ゼネラル・モーターズやいすゞヨーロッパでデザイナーを経験。米国いすゞ副社長、本社デザインセンター部長を経て、1999年に日産自動車へ転身、2000年デザイン本部長、2001年より常務 デザイン本部長を務める。



HEART LINE AWARD 2004

いつまでも、あなたたちの事を
しっかりと強く、やさしく、そして……温かく
握りしめていたいです。

中村江里子



とても大切な人達……

その人達のことを想うだけで、言葉にならない想いがあふれ出て…… そっと触れるだけで、心が穏やかになり、私はとても元気になれるのです。いつまでもいつまでも私のそばにいて欲しいという願いをこめたメッセージです。

中村江里子（フリーアナウンサー）

1969年東京都生まれ。立教大学経済学部卒業。フジテレビ・アナウンス室に入局。1999年フジテレビを退社し、その後はフリー・アナウンサーとして活躍。2001年、シャルルエドワード・バルト氏との結婚を機に、生活の拠点をパリに移す。2004年4月に女兒を出産。「エリコロワイヤル Paris Guide」（講談社）共著に「エレガンスの条件」（ソニー・マガジズ）など。



HEART LINE AWARD 2004

Scrittura Magnifico

そのままでは ほかにく消えてしまう 想いや言葉を
かたちとして残せる文字にしてくれた先人たち
僕たちのコミュニケーションと記録の原型は
乾かかけた粘土板や石、竹、木に文字を刻みおこした
さへ僕たちは この時代に文字を用いて
どんな 想いを刻んでいこうか

松山 猛



子供時代から字があまり上手ではなかった僕はある時、一本の使い易い万年筆に出会い、それから字を書くことが好きになりました。西洋でファウンテンペンが発明される以前に日本にも一人の天才が御懐中御筆という万年毛筆を作っていました。近江の国の鉄砲鍛冶・発明家の國友一貫斎です。人間の暮らしに役立つ文字と道具を作ってくれた全ての人々に感謝と友情を僕は感じて、このメッセージを書きました。「Scrittura Magnifico」とは文字の素晴らしさというイタリア語です。

松山 猛 (文筆家)

1946年京都府生まれ。京都にてグラフィックデザイナーを経た後、「帰ってきたヨッパライ」(ザ・フォーク・クルセダーズ)などの作詞を手がける。その後、編集者、執筆者として「平凡パンチ」「ポパイ」などの雑誌で活躍。現在、時計、ファッション、グルメなど、あらゆるジャンルに精通し、テレビ出演、講演など精力的に活躍中。著書「松山 猛の時計王2」「少年Mのイムジン河」など多数。



HEART LINE AWARD 2004

把
手
共
行

松
浦
弥
郎

手を把って共に生きて行く。この禅語を借り、家族、友人へ心を贈り届けたい。



松浦弥郎（文筆家・COW BOOKS代表）

1965年東京都生まれ。移動書店「m&co.traveling booksellers」を経て、2002年9月、小林節正氏と中目黒に「COW BOOKS」をオープンさせ、2003年12月、表参道に二号店をオープン。多くの雑誌に連載をもち、文筆家として活躍中。サセックの絵本ジス・イズシリーズの翻訳なども手がける。著書に「松浦弥太郎随筆集くらぶえサンドイッチ」「最低で最高の本屋」（共にダイエックス出版）、「本業失格」（ブルースインターアクションズ）など。



HEART LINE AWARD 2004

楽しくて へうへう 悲しくて ヒリヒリ
 淋しくて ポロポロ 興味津々 ビキビキ
 退屈に ボソボソ みじめでボロボロ
 せつなく シンシン 恋しくて ジンジン
 苦しくて ギュウギュウ せふまろヒリヒリ
 可笑しくて ゲハゲハ 嬉しくて
 キトキト！

私のひとりごとを
 いつもいつも 受け止めてくださって
 心から ありがとう

室井 滋



1991年に「むかつくぜ!」というエッセイ本を出して以来ずっと書き続けていますが、内容はささやかな自分の日々の出来事ばかり。ヘタクソな文章と文字ですが、万年筆を握ると何やら面白くなり、それなりに調子付いて書いてしまうのです。女優業との二足の草鞋をどこまではき続けられるかは、ひょっとして“万年筆のみぞ知る”なのかもしれません。

室井 滋 (女優・エッセイスト)

富山県生まれ。早稲田大学在学中より女優活動を始め、81年に映画「風の歌を聴け」でデビュー。テレビ「やっぱり猫が好き」で注目を浴び、映画「居酒屋ゆうれい」や「のど自慢」で多数の映画賞を受賞。「むかつくぜ!」「ふぐママ」他、数々のエッセイを執筆、「週刊文春」、「CREA」、「VoCE」、「NEKO」などにも連載中。近刊は、「すっぴん魂 カップ巻」(文春文庫刊)、「しんシン体操」(文藝春秋刊)。